

## 審判員派遣報告書

1	<b>事業名</b>	全日本社会人バスケットボール選手権大会	2	<b>日程</b>	2019年3月16・17日
3	<b>報告者</b>	長谷川 悠貴	4	<b>派遣先</b>	鳥取県民体育館 県立鳥取産業体育館

5	<b>大会概要 および 大会結果</b>				
<b>大会名称</b>		全日本社会人バスケットボール選手権大会	<b>大会期間</b>		2019/3/16・17
<b>大会内容</b>		各ブロック予選を勝ち抜いたチームによるトーナメント制の大会。 社会人連盟発足後初めての大会で第1回大会という記念すべき大会であった。			

6	<b>担当したGame</b>				
No	期日	対戦カード	R/U	相手審判	ゲーム 雑 感
1	3月16日	(男子) 山口クラブ vs BlackJack	U1	CC 久保 裕紀 氏 U2 田中 優志 氏	最後まで接戦となったが、中盤以降リードし続けた山口クラブが勝利した。
2	3月17日	(男子) Happy People vs 尚徳クラブ	U2	CC 田中 稔 氏 U1 栗原 敏彰 氏	序盤、尚徳クラブがリードする展開となったが、後半HappyPeopleが粘り強い守備から着実に加点し逆転。そのまま逃げ切る展開となった。

7	<b>審判会議・ミーティング内容、審判技術・判定基準等に関すること、全体の感想および提言等</b>				
<p>(男子)山口クラブ vs BlackJack 主任:中川 行臣 氏</p> <p>●オールコートのカバレッジ 試合終盤に拮抗した点差の中でオールコートプレスに対応する場面があったが、クレー間でのポジショニングが上手いかず、自らメカを崩し説得力のない判定につながるケースがあった。どんな状況にも対応できるように3人が正しく準備して対応することは大切であると感じた。さらに、アングルやプレゼンなどが悪ければ選手にも理解してもらえず、不信感につながってしまうことを学んだケースであった。</p> <p>●UFの対応 UFの可能性のある事象が発生した際に、久保さんの呼びかけで3人で情報共有し、クライテリアを確認してUFに持っていくケースがあった。対応の早さ、リードしつつもクレーから情報を聞き出す的確さはとても勉強になった。正しい情報を持ち寄り、正しい判定につなげる。当たり前ではあるがその重要さとそれを実行する強さが必要だという事を感じた。</p> <p>●3vs2 3or2の微妙な場面でショットファウルが起こり、トレイルが非常にビジーとなるケースで、リードから情報を共有して2ショットをさせることができた。確かなものを掴んでいるレフリーがそれぞれに持っているもので正しい判定を導くという、研修で学んだとおりのケースであった。今後もしっかりと意識していきたい。</p> <p>●ワーニング DFの倒れるプレイに対して、ワーニングを与える際ベンチに説明に行くように言われたが、一瞬対応できなかった。自分自身ワーニングでベンチに行くという経験が少なく、とっさの対応ができなかった。経験することも必要だが、そういった場面で出ていくこと、準備しておく必要があると感じた。</p> <p>(男子)HappyPeople vs 尚徳クラブ 講師:谷地 温 氏</p> <p>●プライマリ ゲーム序盤からよく集中できてゲームが進んでいたが、4Qではクレー間でのオーバーコールが増えたように感じた。自分自身もプライマリで判定をしなくてはいけないケースで笛が挟まらないことがあり、乱れを感じる時間帯をつくってしまった。誰がコールするべき判定かテイクするべきかをクレー間で1ゲーム通して共有できればよかった。</p> <p>●トラベリング 映像を確認する中で、足元の判定がほとんどできていないと感じる。自分以外の2人は判定をしている。判定内容を共有して自分の判定にもつなげたり対応したりできるようにしなくてはならないと感じた。</p> <p>●メカの崩れ ローテーション中にトランジションが発生し、3人の関係性が大きく崩れてしまうことがあった。自分が走ればと思いセンターからリードに入ったが、基本通りに動いた方がよかったと感じる。</p> <p>●プレゼン プレーを見て迷いを感じた時にそうしたそぶりを見せてしまうことがある。スクリーンのケースでそうしたことがあったが、それはやめなくてはならない。そうする原因にはレフェリーディフェンスができていないという事もわかった。基本を大切にこだわることで、しっかりとした判定にもつながる。</p> <p>●最後に 今回の派遣に際しまして、様々な方のご協力をいただきありがとうございました。今年度は2度の全国大会を経験させていただきました。他県の上級レフェリーの方とご一緒させていただく中で、メカや判定のベーシックをしっかりと持って、さらにそれらを表現することの重要性を強く感じるようになりました。今年度の経験をしっかりと活かして、来年度もまた頑張っていきたいと思っております。ありがとうございました。</p>					